

# 「親切第二」の精神で自己を鍛え社会に貢献 教育と研究の両輪で、薬学の未来を切り拓く

本学は1911年に実業家の星一が設立した、星製薬株式会社の教育部を起源としています。星は創立の理念を「親切第一」と掲げ、「自己に親切なれ、何人にも親切なれ、親切こそ人間の第一なり」と、教えを添えています。私たちは星の言葉を、

「一生懸命学び、体を鍛え、社会に貢献できること」と解釈し教育の柱としています。長い伝統の中で、大勢の卒業生が薬剤師や研究者となって社会で活躍しています。その実績が星薬科

の名を高め、後輩を引き立てていく。そんな良い繋がりが生まれています。

## 臨床やコミュニケーション、 データサイエンスを学ぶ

医療人の重要な資質として、臨床に強いことがあげられます。正確に調剤するというだけではなく、医師に薬物治療の提案を行ったり、チームで患者さんに対応するスキルを磨くなど、ますます臨床に強い薬剤師が必要になってきました。本学ではそ

んな人材を育てるため、一線で活躍している医師を招聘し臨床に関する講座を開設しています。2つめはコミュニケーション能力です。チーム医療を推進する多職種連携や、患者さんから本音を引き出す傾聴力などを身に付けるためには高いコミュニケーション能力が必要です。3つめはデータに強いこと。単に業務を効率化できるということだけではなく、薬物療法の提案や分析、患者データベースの解析による副作用予測などにも有効です。本学では1、2年生対象にコミュニケーションとデータサイエンスの授業を設けています。

## 国家試験合格者平均90%※ 研究で身につく総合力

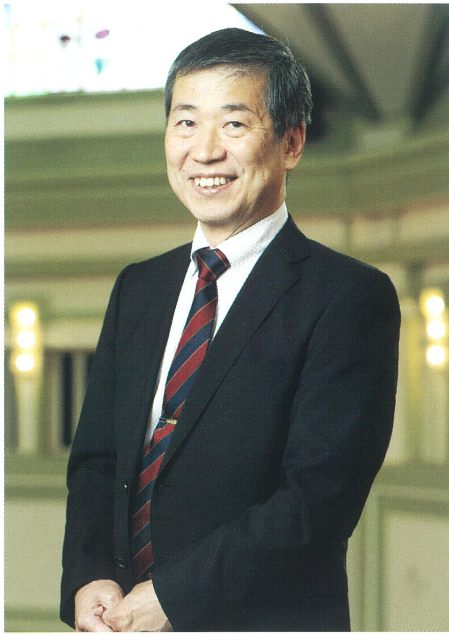
本学には薬剤師を目指す「薬学科」と、創薬を目指す「創薬科学科」があり、実習や研究を通してハイレベルなスキルを身につけます。薬剤師国家試験は



同大の歴史資料館に展示されている、野口英世の顕微鏡。米国ロックフェラー研究所で使用していたもので、大統領から贈られた当時最高級のもの。創立者の星一は米国留学中に野口英世と知り合い交遊を深めており、その縁で寄贈された。

直近5年の平均合格率90%と全大学平均の85%を上回ります。本学には独自の研究に従事している教員も多く、研究に強いことも特徴です。学生も研究に参加しますが、研究はロジカルに考え、英語の論文を読み込んだり議論をしたりして、複合的な力を育てます。その力は薬剤師、研究者だけでなくほとんどの職業に通用します。卒業生は薬剤師や研究職のほか医薬品メーカーの開発職やMR職など、幅広い分野で活躍しており、高い評価を受けています。

これから受験を迎えるみなさんは勉強が大変だと思えますが、人間の記憶は感動や感情を伴うと定着しやすくなります。楽しく、そして感動を忘れずに勉強して下さい。



牛島 俊和 学長

うしじま・としかず / 1986年東京大学医学部医学科卒業。東芝林間病院勤務を経て関東通信病院血液内科専修医に着任。89年から国立がん研究センター研究所がん研究部リサーチレジデント、研究員、室長を経て、99年に同部長。2020年から国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部副本部長。22年から現職。

